

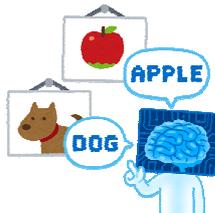
自動化のすすめ

AIは怖い？

最近、テレビのニュースなどでAIという言葉をよく聞きます。堅苦しい言い回しだと「人工知能」といった方がイメージしやすいという方もいらっしゃるかもしれませんが。昔から映画やドラマでは、AIが人間の想定を超えて勝手にいろいろと考え出し、人間に取って代わり、終いには人類を窮地に陥れるといった設定が多く、見ている人をハラハラドキドキと怖がらせたものです。一方、最近よく使われるAIは、もう少し狭い範囲のものを指し示すようで、AI自身が生物の脳神経回路をモデルとしたアルゴリズム（問題を解決するための手段や計算方法）を用いて人間の力を借りずに画像や文章などを認識し、学習するといったもののようです。中国では、このAIを使って人の顔認識を行っているニュースを見た方もいると思います。

このAIの画像認識が、みなさんの近くでも既に使用されていることをご存知でしょうか？身近なところでは、家計簿アプリや会計ソフトなどにもAIが徐々に浸透してきています。例えば、買い物をしたレシートなどをスマートフォンで写真に撮り、アプリやソフトに写真を取り込むことにより、自動的に家計簿が出来上がったり、会計上の仕訳が生成されたりします。最近では、AIの画像認識の精度が非常に高くなっており、日付、金額、取引先なども99%以上の精度で登録できます。この仕組みを上手く活用できれば、経理の手間も大幅に減らせそうです。

経理担当者がいらっしゃる会社であれば、社長がレシートを経理担当者に渡せば、経理担当者が会計ソフトに仕訳を入力して、翌月半ばまでには、試算表の大部分が完成してしまいます。しかし、経理担当者が不在の会社の場合、経営者ご自身か奥様などの時間が空く時まで、レシートを会計ソフトに入力することなどできません。このため、月初に前月分のレシートなどの領収書や請求書等一式を会計事務所へ郵送して、会計データの作成を「丸投げ」にせざるを得ない状況も生じてしまいます。このため、経理担当者がいない会社では、タイムリーに試算表を見ることが出来ないだけでなく、余計なコストも負担せざるを得なくなってしまう。



自動化のすすめ

手間をお金で買うといった考え方もありますが、会社のことを一番よく知っているのは、会社の経営者ご自身であるはずですが。「忙しくて時間がない！」という前に、自動化できることは躊躇せず自動化してみたいかがでしょうか？

例えば、インターネットバンキングを使っている方であれば、インターネットバンキングの利用履歴を会計ソフトに連動してみたいかがでしょう。驚くほど楽に金融機関の利用履歴を取り込むことが出来ます。これにより、時間をかけて銀行へ行行って通帳に記帳する手間も省け、会計ソフトを起動すれば、日々の残高の確認もできます。会計ソフトによっては、きちんと設定を行えば総合振込も会計ソフト上から出来たりもします。インターネットバンキングは利用していないという方でもクレジットカード、Suica、PASMO、PayPayなどの決済サービス、Amazonなど電子商取引サイトを利用されている方も利用履歴を会計ソフトと連動することが出来ます。また、会社でPOSレジを使用していれば、POSレジから売上を連動させることも出来ます。まだまだ、ここでは書ききれないほど、いろいろなサービスを会計ソフトと連動させることが出来ます。

こうして見ると、今まで手作業で会計ソフトへ入力していたものの多くが、自動で会計ソフトと連動できると分かっていただけたかと思います。

ルールを管理するのは自分自身

しかし、何でも自動という訳にもいきません。どんなに優れたAIでも、まだまだ完璧ではありません。AIが学んだ学習ルールについては、人がチェックを行う必要があります。このルールをきちんと管理していくことにより、本当に経理担当者、若しくは経営者ご自身の手間が減ることにつながっていきます。また、会社によっては、自動化するために、現在の経理の仕組みの見直しや変更が必要となることも出てきます。

朝日税理士法人では、こうした会計ソフトの導入支援や経理を自動化するための業務改善支援も有償で行っています。興味のある方は是非、当法人の担当者までお声掛けください。

(文責：関内本店 山崎雅樹)